

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援センター ひばり学園		令和7年3月31日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	適切である。 あそびの内容によって人手があるとあそびの幅が広がると思う時がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	わかりやすく構造化された環境にはなっている。	園までの階段や手摺りは子どもに合った高さが望ましい。 トイレは安全面や排泄時のプライバシーの保護に対する配慮が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	吊り遊具は軽いものしか使えない。	酷暑や厳冬の日に空調設備のエラーで設定温度にならない時がある。早急に対応する必要がある。 子どもの手洗いでお湯が使えると良い。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	個別の部屋はあるがリハ科と併用しているため使用時間に制限がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	日々の保育内で共通理解している。	全ての保育に対してできている訳ではないため、短時間で目標設定と反省をする努力が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2		互いに意見を出し合い話しができるようにしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		今年度内に児童発達支援センターの外部評価を受けて改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0		部署内での学習会が必要。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1		今年度内に作成し公表する(2025年2月15日に公表)。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0		支援に関わる職員の共通理解が十分かはわからない。主に関わる職員を軸に、成長する子どもの姿に合わせた支援ができるよう情報共有を深める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	標準化されたツールとしては発達検査の結果等で確認。フォーマルなアセスメントも必要かと思い運営指導で相談、独自のアセスメントで確認できている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	チームで行えていない場合もあるが、朝のミーティングで共有している。	チームで考えることもあるが、個人で考えなければならないこともある。

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	工夫していることもある。固定化しているところもある。	工夫はするが積み重ねが大事と考える上で同じようなことになりやすい。もっと新しいことを取り入れないとおもしろくないと思う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	それぞれに対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5	後日になることもある。必ず行っていないがその日の話や出来事を話す時はある（全員ではない）。	記録と準備で毎日ではできない。今年度は少しずつ振り返りの機会は増えている。支援終了後の時間の使い方を見直して打合せの時間を作れるよう努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	記録はできている。	支援の検証・改善につながるように記録の書き方を工夫する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	あまり連携はとれていないと思う。	支援体制は備えている。相談支援専門員と協力して連携強化を図る。
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	保護者に話を聞くが、連携はとれていないと思う。	併行通園先の保育所や幼稚園との情報共有を増やす必要がある（保育所等訪問の実施など）。
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	図ってはいるが十分とは思わない。	小学校や支援学校からの見学を受入れ懇談などを通して情報共有している。学校により書面で情報提供をする時もある。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	4	2	個人的に他事業所との連携をとっている（研修やネットワークに参加）。	療育の勉強会等、質の向上を牽引していく必要がある。
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	5	1	専門家等からの助言は受けていないが、外部研修には参加している。	発達障害に関しては専門家からの意見や助言が必要。
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	0		
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	6	全員が望まないと思うが、あると良いと思う。各々の併行通園先ではあるが園としてはない。	利用者のほとんどが併行通園なので交流などの要望は今のところない。
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	外部の情報提供にとどまっている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	保護者会はあり進路勉強会開催等の支援をしている。きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援はできていない。	きょうだい支援の部分を強化する必要がある。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		適切に対応できるよう、内容に応じた体制（多職種など）を整えていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	おたよりはあるがSNSはしていない。ホームページについてはどのくらい見てもらっているかは不明。	情報発信のツールとしてWEBサイトやSNSの活用を考える。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	6	コロナ以降、法人としてまだ難しい。週1回の子育てサロンでは地域の親子に來園してもらう機会がある。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	4	法人で各マニュアルは策定している。院内研修を受けている。	防犯想定、緊急時の対応など行えていない訓練もある。研修をいかし、園に合わせた訓練を考えて実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2	BCPは法人で策定している。園では定期的に火災発生を想定した避難訓練や地震発生時の訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	周知されているかはわからない。安全確保に関しては園内外での活動の際に注意喚起等を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1		ヒヤリハットの共有や再発防止に向けた検討については不十分。職員が同じ意識を持てるよう努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0			